

# 救い主の誕生

クリスマス礼拝  
2017/12/24



# ルカ福音書2章1～14節

そのころ、皇帝アウグストゥスから全領土の住民に、登録をせよとの勅令が出た。これは、キリニウスがシリア州の総督であったときに行われた最初の住民登録である。人々は皆、登録するためにおのおの自分の町へ旅立った。ヨセフもダビデの家に属し、その血筋であったので、ガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。身ごもっていた、いなすけの MARIA と一緒に登録するためである。

ところが、彼らがベツレヘムにいるうちに、MARIA は月が満ちて、初めての子を産み、布にくるんで飼料の桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである。

その地方で羊飼いたちが野宿をしながら、夜通し羊の群れの番をしていた。すると、主の天使が近づき、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。

天使は言った。「恐れるな。わたしは、民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである。あなたがたは、布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子を見つけるであろう。これがあなたがたへのしるしである。」

すると、突然、この天使に天の大軍が加わり、神を賛美して言った。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」



# 「救い主」

- 「助ける」と「救う」の違い
  - 自分で何とかできるかそうでないか
- 私たちは自分ではどうしようもない問題をかかえている
  - すべての人は神様に背き、関係が壊れている
  - どんな努力もむだである
- 神の御子は救うために生まれた
  - 溺れている私たちのそばに来られた



# 「今日ダビデの町で」

- 永遠の自由を捨て“時間の束縛”に入られた
  - 人間には誕生日があるのがあたりまえだが
  - 神の御子は本来時間の「外」におられた
- 偏在(へんざい)の自由を捨て“空間の束縛”に入られた
  - しかも「飼い葉桶」に寝かされた
  - 本来、どこにでもおられる方なのに



# 「お生まれになった」

- 人間と同じ“限りある命”を持たれた
  - 人間に命を与えられた方が
- それは、やがてすべての人間の身代わりとなって、その命を捨てるためであった
  - 「わたしは良い羊飼いです。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。」ヨハネ10:11



# 「あなたがたのために」

- この知らせを受けたのは羊飼いたち
  - 貧しく、過酷で、認められない仕事
- 神様は、天使を遣わして、彼らにだけ!  
このおとずれを伝えられた
  - 最も必要な人にだけ
- 救い主は“あなたのため”に生まれた
  - 多くの人をまとめて救うためではなく
  - 神は一人一人を愛しておられる



# 天の大軍の賛美

- 天使たちは、この出来事の素晴らしさ、偉大さを一番よく知っていた
  - 黙っていられなかった？
- 「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。」
  - 罪人を救うために御子をさえ惜しまずに与えられる神に栄光があるように
  - 神と人、人と人との間に、本当のそして永遠の平和がおとずれる





今日ダビデの町で、  
あなた(がた)のために  
救い主がお生まれになった。

